

今こそこの人に会いたい
シリーズ ー第5回ー

ー上野英二さんー
木と共生する
オークヴィレッジ社長

所長弁護士
藤田 哲

我が家（藤田の自宅）は平成8年に建築し、今年で築25年になります。昨年、思い切って大改装しました。台所、居間を全面改装し、私の書斎とオーディオルーム兼トレーニングルームを新たに作りました。その設計と改築をしていただいたのが、高山にあるオークヴィレッジでした。この会社を選んだのは、高山のショールームで見た木造のキッチンの暖かさでした。このキッチンを見て木の美しさと暖かさに魅かれた私は、大改装を思い立ったのです。

今日は、このオークヴィレッジ株式会社の上野英二社長にモノ造りの楽しさを伺います。



上野英二社長

藤田（以下 F）：まず、オークヴィレッジに入社された経緯を教えてください。

上野（以下 U）：私は北アルプスの麓にある奥飛騨で生まれ、高校まで高山で暮らしました。学生時代と社会人になって数年は名古屋の建築設計事務所で働いておりました。

働き出して3年目の時、偶々、松坂屋百貨店で開催中のオークヴィレッジ展を見に行ったのが、オー

クヴィレッジとの出会いです。その当時はまだ珍しい手作り家具に興味深く見入っていました。その時、創業者の稲本代表から声を掛けられ、「君は今何しているの？そう、設計事務所で建物を設計しているの。丁度いい所で出会えたね。今、店舗の設計の依頼が2件あって、君やってくれないかね」と、突然言われたことがきっかけで、お手伝いすることになりました。

当時私は、設計事務所で、鉄筋コンクリート造の大きなマンションやオフィスビルや倉庫を設計していましたが、無機質な建築ではなく、小さくても温もりが感じられる木造の建物を造りたいと思い始めていた頃でした。その後、日毎に木造建築をしたいという思いが強くなり、ついに故郷に帰ってオークヴィレッジで建築や家具の設計をすることになりました。

F：稲本さんから、突然ナンパされたようなものですネ（笑）。ひよんなことから人生が一変するの面白いですね。

木の部屋を作った方が良いという上野さんのアドバイスに従い、木で書斎とオーディオルーム兼トレーニングルームを造っていただいて、とても気に入っています。ありがとうございました。

木で作った家具や家は、温もりがあってとてもやさしいのですが、木は生き物ですので、難しい一面もあると思います。まずは、木で家具や家を造る難しさを教えていただけますか。

U：木は天然素材ですから一本一本に個性があり、材種や育った環境によって色も、空目も、肌触りも、香りも、重さも、強度も違います。

また、割れたり、曲がったり、ねじったり、伸縮したり、カビたり腐りもして、欠点もあるのですが、美しく加工し易い素材であることから、これまでいろいろな所に使われ、多くのモノが造られて来ました。



森の中に溶け込んだ
オークヴィレッジの
高山本社社屋